



フードバンクしまね あったか元気便 2021 年度 事業計画（案）

2020 年度は、2 つの中学校、4 つの小学校にフードバンクの取り組みが広がりました。これらの学校の児童・生徒数は松江市内の 4 分の 1 を占めています。

「あり方検討会」からは、今後、全市に取り組みを広げるとともに、任意団体から NPO 等の法人格をもった組織への移行をめざす方向が示されました。

また、昨年度末に行った「利用者アンケート」では、「仕事、これからの生活と、時々ふっと落ち込むことがあります。でも元気便のおかげで少し気が楽になりました。元気もらいました。」などの声が寄せられ、私たちの取り組みが生活困窮と子育てのなかで頑張るおかあさんたちへの励ましと支えとなっていることが、あらためて示されました。

こうした内外からの声に応え、今年度は、さらにステップアップした取り組みを広げましょう。

1：全市への広がりをめざし、組織形態の移行を図ります。

地域社会からの信頼度の向上、「見える化」の促進等、事業の拡大に見合った組織形態として認定 NPO への移行をめざして準備をすすめます。あわせて、必要な組織課題の整備、強化をすすめます。

2：「おたがさまのまちづくり」へ一歩前進

小学校区ごとにフードドライブやボランティア参加を中心に、地域団体との連携・協同の取り組みをすすめます。とりわけ、地区民児協を中心に「地域報告交流会（仮）」の開催等の働きかけを行い連携強化に努めます。

また、安定した自主財源の確保に向け企業、団体の賛助会員ふやしに本格的に取り組む、2 ケタの賛助会員増を図ります。

3：SNS も活かし「頼りにされるフードバンク」

長期化するコロナ禍の中で、引き続き「緊急食品応援」に取り組めます。「受け取り方式」で、生鮮品も含めた食品の提供を機動的に取り組めます。

SNS の活用で利用者向けの情報提供を質量ともにアップします。また、利用者相互の交流の「場」としての活用も検討します。利用者が「ささやき」「つ

ぶやき」「SOS」を発信できる「広場づくり」やネットワークづくりをすすめます。

「おかあさんのためのレスパイト家事支援」（炊事などの支援で子育ての一時中断）、学生・教員 OB などの有償ボランティア参加で「〇〇休み・昼ごはん付き寺子屋」（学習支援）など、あらたな支援のあり方も検討します。

4：「見える化・見える化」と多様な参加スタイルで支える輪づくりを

職場や地域団体と連携し、単位ごとの「ちいさな応援バザー」や「amazon みんなで応援プログラム」の COOP 版の検討、大型店舗での「絆 BOX」（仮称）の設置の働きかけなど、お金や食品集めの「見える化」と多様なスタイルを工夫し、支える輪づくりをひろげます。

「あったか元気便だより」の配布数 900 枚（12 月現在）を 2 倍以上にひろげます。新しい団体、企業は、もとより、既存の団体の構成員、ボランティア参加者にひろげ、「市民（個人）参加」を高めることが大切です。

5：学習と「出会いの場づくり」

地域や団体で「島根県子どもの生活に関する実態調査」の小規模学習会の連続開催をはじめ、連携と協同のプラットフォームとして教職員や行政職員などをはじめ、これまでの枠を超えた層への呼びかけで学習と交流企画を計画します。

6：機関会議の定期化で「あり方検討会報告」の具体化など諸課題を前に

常任運営委員会、運営委員会の定例化を図り、法人化の準備、「あり方検討会報告」の具体化など、政策的方針の検討、具体化をすすめます。

大学と連携し「利用者のくらしと子育て実態調査（仮称）」（PJ 設置）に取り組み、実態やニーズを把握し、地域や行政にも発信します。

助成金などの「大きなお金」は、情報収集、申請実務など担当者を決めて体制を強化します。

引き続き、事務所兼倉庫の確保をめざします。あわせて、事務局機能の整備、拡充をはじめ次世代スタッフの確保・育成に注力します。

